国際交流基金助成事業報告書

薬学部１年次生　岡田櫻良

1. はじめに

2019 年 8 月 18 日～25 日までの 8 日間、国際交流基金の助成をうけ、カナダのバンクーバーで行われたサマープログラムに参加しました。語学学校にて医療英語を学び、実際に 2 つの医療現場を見学し、2 人のゲストスピーカーからカナダの医療事情を伺うことができました。かなり違うカナダと日本の文化ですが、それは医療においてもそうでした。

2. カナダの医療制度

市民は 2 種類の病院を使い分けます。一つは国が運営する公立の病院で、もう一つが私立のクリニックです。公立病院の長所はタダであること。短所は病院に運ばれてから、緊急以外では 3 ヶ月待ちなどがざらであることです。カナダでは日本より緊急性による治療の優先順位変化の影響が大きいです。

私立のクリニックを使う利点は、待ち時間が短いことですが、そのかわりに補助金がないので、治療費がかなりまとまった額となります。さらに血液検査やエコーなどを別の施設に依頼しているので、そこでも個別にお金がかかることとなります。

以上の理由から、薬局にはかなり需要がありました。薬剤師は各薬局一人だけで、あとはテクニシャンや学生のアルバイトが雑務を手伝っています。頭脳労働のみの薬剤師にはある程度の処方権があり、予防注射も行えます。また、薬局に栄養士を呼び、ダイエットの監督のようなこともしているようです 。

どちらにせよ日本のように、一足飛びに専門医に診てもらえるようなことはないようで 、一度総合医のような医師に診てもらってからとなっていました 。

3. 語学学校

オックスフォードインターナショナルノースアメリカで 6 日間、医療英語を学びました 。患者さんが訴えるであろうさまざまな症状や、病気の名前を覚えたり、さらには服薬指導する際に使うであろう会話文でのロールプレイを幾度も重ねました 。

工夫の凝らされたアクティブラーニングが中心なので、飽きずに、さらに英語のみの授業でしたが、きちんと理解して進むことが出来ました 。

4. ホームステイ

カナダではイタリアからカナダへ移住したという 4 人家族の元でホームステイをして過ごしました。

聞いたことにはなんでも答えてくれて、わたしの拙くはなす英語も辛抱強く聞いてくださいました。食事の文化の違いには 1 番驚きましたが、最中の時間は、ずっと話しかけてくださって、カナダの天候や人や観光のこと、イタリアのカミナリのことなど、様々教えていただけました。概ね不便のない、快適で有意義なホームステイでした 。

5. 観光

授業や医療施設視察やゲストスピーカーによる講演会により、開始は 16 時を過ぎることが多く、人によっては行ききれなかった場所もたくさんありましたが、学校近くのギャスタウン、夕陽の美しいイングリッシュベイ、現地の方も行く市場・グランビィアイランドなど、歩いていける景勝地や観光地には訪れることができました。タコスやデザート系統も甘すぎずに美味しかったです。
また、日本のコンビニくらいたくさんスターバックスがあり、大きさの割に安いのですが、値段の横すべてにカロリーが書いてありました。

6. まとめ

異文化交流というものを言葉では理解していても、なかなか頭に落とし込めていませんでしたが、今回カナダにいったことで、私たちが普段日本で当たり前だと思っている人の行動が、あちらではなかったり、またこちらではやりたくても中々難しいようなこと、例えば、お年寄りに席をサッと譲って円満なままの空気作りなど、が出来上がっていることなど、医療の違いから学んだことも加えて、「異国」である。といった感を強く抱きました。
しかし、だからといって違和感を抱くわけでもなく、それはそうなのだと受け入れられたことは、わたしのなかの、現地での英語漬けとともに一つの大きな財産となりました。